寄 書

日本地震学会の設立は 1880年3月11日である

東京大学地震研究所* 泊 次郎

The Seismological Society of Japan was
established on March 11th 1880

Jiro TOMARI

Earthquake Research Institute, University of Tokyo,
1-1-1 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0032, Japan
E-mail: tomari@eri.u-tokyo.ac.jp

(Received February 4, 2013; Accepted March 25, 2013)

§1. はじめに

世界で最初の地震学会ともいわれる日本地震学会 (The Seismological Society of Japan) の設立に関する新史料が見つかった。これまでの地震学史では、お雇い外国人たちを中心にして日本地震学会が設立されたのは1880年4月26日とされてきた。ところが、新史料には日本地震学会が設立されたのは同年3月11日であることが明記されている。地震学会設立の話し合いは、設立のきっかけになったといわれる横浜地震 (同年2月22日) の1年ほど前から進んでいたことも、これらの史料は物語っている。

§2. これまでの定説とその典拠

日本地震学会の設立日について、これまでの地震学史ではどのように記述されているかを簡単に見ておこう。宇佐美・浜松 (1967) は「当時お雇教師として日本に来ていた外国の科学者、技術者に〔横浜地震が＝著者挿入〕多大の刺激を与え、同年4月26日、日本地震学会が設立された」と書いている。藤井 (1967) の33頁には「地震のあったのは2月22日であったが、3月31日には早くも第1回の会合が行われた。ついで4月26日月曜日、地震学会の会員は開成学校の講義室に集まり総会を開いた」とある。萩原 (1982) にも5頁に「第1回の会合は早くもこの年の4月末に開かれた」と書かれている。金 (2007) にも29頁に「1880年4月26日に開かれた日本地震学会の第1回の総会で…」との記述が見える。

以上のようにこれまでの地震学史では、日本地震学会の設立は1880年4月26日とされてきた。その典拠はいずれの文献にも示されていないが、日本地震学会が発行した雑誌 Transactions of the Seismological Society of Japan の第1巻の巻頭には (Fig. 1), 「On Monday the 26th April 1880 the members of the society held a general meeting in the lecture hall of Kaisei Gakko, (1880年4月26日月曜日、会員は開成学校の講義室で総会を開いた)」との1文で始まる記事 [Seismological Society of Japan, (1880)] が掲載されている。この1文が4月26日設立説の根拠になった、と考えられる。

しかしながら、この記事を読み進めていくと疑問も湧いてくる。10行目から13行目にかけて「The vice-president of the society, Professor Milne, took the chair and called the meeting to order by announcing that secretary, Professor Chaplin, would read the minutes of the previous meeting (副会長のミルン教授が議長になって開会を告げ、幹事のチャップリン教授に前回の会合の議事録を読むように依頼した)」との文章が出てくるからである。議事録が確認された後には、会長に選出された工部卿の山尾庸三が、公務多忙を理由に会長就任を断る3月27日付の手紙 (チャップリン宛) が読み上げられている。山尾の辞退を承認した後で新しい会長選挙に移ると、会長候補に推薦されたミルン (J. Milne) は「私は副会長の席を占めているので、もし私が会長になれば、新たに副会長の選挙が必要になる」と発言している。会長選挙は結局、ミルンと東京大学法学部総理補の服部一三の2人の間での投票になり、服部が選ばれた。

こうした記述は、会長や副会長、幹事の選出は3月27日以前に行われていたことをうかがわせる。なお、藤井のいう「3月31日の会合」は何を指すのか、藤井があげている参考文献の中には、これに関連する記述は見当たらない。

§3. 3月11日設立を示す新史料

こうした疑問を抱いて史料を見てゆくと、1883年に発行された Transactions of the Seismological Society of Japan の第6巻40頁に “Annual Reports of the Committee of the Seismological Society of Japan” という見出しの記事 (Fig. 2) を見つけた。この記事の冒頭には「The Seismological Society of Japan was established at a meeting of many of the residents in Tokio and Yokohama, held at the Tokio University on March 11th 1880 (日本地震学会は1880年3月11日東京大学で、東京と横浜の在住者の多くが集まった会において設立された)」と明記されている。さらにその1文後には「A full report of this

* 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

*TRANSACTIONS OF THE SEISMOLOGICAL SOCIETY
OF JAPAN.*

ON Monday the 26th April 1880 the members of the society held a general meeting in the lecture hall of the Kaisei Gakko, the business being the election of a president, in consequence of His Excellency Yamao Yozo having declined, through press of business, to accept the presidency of the society; the reading of a paper on seismic science by Professor John Milne, and a description of a new seismograph invented by Professor J. A. Ewing.

The attendance was very good.

Fig. 1. The beginning of the Transactions of the Seismological Society of Japan Vol. 1, p. 1. [Seismological Society of Japan, (1880)].

[40]

*ANNUAL REPORTS OF THE COMMITTEE OF
THE SEISMOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN.*

The Seismological Society of Japan was established at a meeting of many of the residents in Tokio and Yokohama, held at the Tokio University on March 11th 1880. At this Meeting General T. B. Van Buren, U. S. Consul General, whose efforts had a considerable influence in the formation of the society, took the chair. A full report of this meeting may be found in the Japan Gazette of March 12th 1880. The work which has been accomplished by the society since this time, is briefly indicated in the following reports and in the six volumes of Transactions which have been published.

Fig. 2. "Annual reports" which appears in the Transactions of the Seismological Society of Japan Vol. 6, p. 40. [Chaplin *et al.* 1883].

Fig. 3. A part of the Japan Gazette of March 12th 1880, which carries the establishment of the Seismological Society of Japan. [Japan Gazette, (1880)].

meeting may be found in the Japan Gazette of March 12th 1880 (この会の詳しい報告は1880年3月12日のThe Japan Gazetteに掲載されている)」とも書かれている。

その後には「The work which has been accomplished by the society since this time, is briefly indicated in the following reports and in the six volumes of Transactions which have been published (この時以来、学会によって成し遂げられた仕事は、以下の報告とこれまでに出版された6巻の紀要を見れば概要が分る)」と書かれ、幹事と会計による1880年～81年、81年～82年、82～83年の3年間の会務報告・会計報告が年次別に掲載されている。

1880年3月12日のThe Japan Gazetteには“The Formation of a Seismological Society in Tokio”との見出しで長文の記事が掲載されている (Fig. 3)。この記事によると、3月11日に開かれた会合にはユーイング (J. F. Ewing)、グレイ (T. Gray)、クニッピン (E. Knipping)、ライマン (B. S. Lyman)、ミルンら約60人が出席し、米

国総領事のバン・ブーレン (Van Buren) が議長を務めた。チャップリンによって会の名称、目的、会費、役員などを定める15条からなる会則の原案が読み上げられた。逐条審議の結果、原案を一部修正の上、会則が決まった。そして役員の選出に移り、ミルンが会長にクニッピンを推薦したが、クニッピンは推薦を固辞した。最終的にはユーイングが推薦した山尾とチャップリンの2人の間での投票になり、山尾が選ばれた。副会長、幹事についてもやはり選挙が行われ、それぞれミルンとチャップリンが就任することが決まったことなどが書かれている。会則が決められ、役員選挙が行われていることから、3月11日の会合は名実ともに「設立総会」の要件を満たしていた、と考えられる。

3月11日前後に日本で発行された他の英字新聞を調べてみると、3月3日のThe Japan Daily Heraldや3月6日のThe Japan Weekly Mailには、地震学会設立の必要性を訴える論説が掲載されている。これらの記事には、日本に住む外国人の間では横浜地震の約1年前から地震学会設立の必要性やその性格などをめぐって議論が進んでいたことも書かれている。外国人たちは母国ではほとんど経験したことのない地震に大きな関心を示し、1870年代にはいるとクニッピンやチャップリン、ナウマン (E. Naumann) ら多くのお雇い外国人たちが地震の研究を行い、日本アジア協会、ドイツ東アジア協会などで成果を発表していた [例えば金 (2007)]。そうした学会での発表経験を通して、地震について専門に論じ合える学会の必要性が認識されていたことが、これらの記事からは読み取れる。

Milne (1880) が「日本地震学会の設立は、この地震が最後の推進力 (impulse) になった」と述べているのは、横浜地震までに学会設立の機が熟していたことをも表現したものである、と解釈できる。

§4. ま と め

以上に紹介した新史料によって、日本地震学会の設立総会が開かれたのは1880年3月11日であったことは明らかである。4月26日の総会は設立総会で選ばれた会長が就任を辞退したことに伴い、新たな会長を選出するために開かれた総会であった。横浜地震から20日も経たずに日本地震学会が設立できたのは、横浜地震の約1年前から関係者の間で設立に向けた話し合いが進んでいたからであった。

文 献

Chaplin, W. S., P. Mayet, J. Milne, H. M. Paul, and I. Hattori, 1883, Annual Reports of the Committee of the

- Seismological Society of Japan, Transactions of the Seismological Society of Japan, **6**, 40-48.
- 藤井陽一郎, 1967, 「日本の地震学」, 紀伊国屋書店, 239 pp.
- 金凡性, 2007, 「明治・大正の日本の地震学」, 東京大学出版会, 174pp.
- 萩原尊禮, 1982, 「地震学百年」, 東京大学出版会, 233pp.
- Japan Gazette, 1880, The Formation of a Seismological Society in Tokio, The Japan Gazette, March 12th, 2.
- Milne, J. 1880, The earthquake in Japan of February 22nd 1880, Transactions of the Seismological Society of Japan, **1** (2), 1-116.
- Seismological Society of Japan, 1880, Transactions of the Seismological Society of Japan, Transactions of the Seismological Society of Japan, **1** (1), 1-2.
- 宇佐美龍夫・浜松音蔵, 1967, 日本の地震および地震学の歴史、地震第2輯, **20**, 「日本の地震学の概観」特集号, 1-34.